

国際

こだいら



2008年
No.55

Kodaira International Friendship Association News



2008年7月6日(日)

国際交流フェスティバル 2008

こだいら国際交流フェスティバル



7月6日(日)にKIFAの最大イベントである「国際交流フェスティバル2008」が開催されました。地域センターが、この日ばかりは国際的に変身し、みごとに多国籍ムードを醸し出してくれました。

まずは中庭へGO!タイ、中国、韓国、シンガポール、スリランカ、セネガルの屋台がズラリ。むしむし暑いのも南国と思えばOKです。来場者も(取材に来た私も)どれを食べようかウロウロ、キョロキョロ。ヨーヨー、綿あめもあります。お腹が満たされた所で場内へ。1階の目玉は「おぼけ屋敷です。遊戯室がまっ暗に!」「よく出来ているな〜」と歩いて行くとオバケ登場。「キャ〜!」

その他、日本人に人気の(?)お茶席、いけばな体験

があり、改めて日本の文化を知る事が出来ました。それから、外国人による日本語で話そうコーナー、子供に人気のクラウンショーも楽しかったです。そしてフェスティバルの超目玉 グルポ アンダルスによる「フラメンコ」ショーは2人の女性の激しく情熱的な踊り、タップ。男性の叙情的な歌。そして力強く、生きているようなギター。会場も情熱が伝わり、オレ! ムイビエン! グアバー! と熱狂していました。踊りの女性は世界的に有名だそうです。

本当にこのフェスティバルは盛り沢山で、帰ってから体も心も満たされ幸せな気分が続いていました。すぐ得したパスポート要らずの海外旅行でした。

平成20年度ボランティア連絡会幹事紹介(役職、五十音順)

- ・代表幹事 中谷 正明(情報提供コーナー)
 - ・副代表幹事 江連 紀子(世界の料理)
- 各グループの幹事は次のとおりです。
- ・機関紙発行 深澤 慶子
 - ・日本語会話教室(月) 木村 亜里子
 - ・交流サロン 近田 晴彦
 - ・日本語会話教室(金) 住山 暁子
 - ・国際交流パーティ 菅沼 京子
 - ・日本語会話教室(土) 大竹 徳子
 - ・国際こどもクラブ 山瀬千佳子

平成20年度協会役員・評議員の紹介(平成20年4月1日現在)

- | | | | | | |
|------|------|--------------|---------------|-------|-------|
| 理事会 | 理事長 | 山之内照雄 | | | |
| | 副理事長 | 安部 泰人 | 奥村 秀 | 窪田 治 | |
| | 理事 | 土屋 国和 | 滝島 和好 | 神石 實 | 大森 道夫 |
| | | 傍島 浩之 | 大塚 倫治 | 本元 久之 | 辻 俊樹 |
| | 監事 | 鈴木 忠司 | 吉田 孝男 | | |
| 評議員会 | 議長 | 高杉 喜平 | | | |
| | 評議員 | 朱 海慶 | アモアベン・クアシ・チェイ | | |
| | | ベル・デズモンド・トマス | 久家富美子 | 山口 伸一 | |
| | | 福川 孝一 | 加治屋さわみ | 山口 嘉史 | |
| | | サイモン・クレイ | 渡辺 道夫 | 江連 紀子 | |
| | | 中谷 正明 | 小林 秀雄 | 小林 勝行 | 吉祥 千明 |
| | | 豊田 二夫 | | | |

平成19年度収支決算(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

○収入の部		(単位 円)
科目	決算額	
賛助会費収入	1,394,000	
補助金収入(市補助金)	14,669,000	
寄附金収入	301,000	
積立金繰入	0	
事業収入	6,972,299	
雑収入(預金利息等)	15,517	
前年度繰越金	2,197,344	
収入合計	25,549,160	

○支出の部		
科目	決算額	
事業費	9,385,542	
国際理解及び国際親善の普及事業	5,620,106	
地域における友好交流事業	1,048,925	
地域や日本文化並びに外国都市や外国文化の紹介事業	442,924	
国際交流情報の収集及び地域への情報提供事業	1,832,155	
その他協会目的達成事業	441,432	
管理費(管理運営費)	13,854,407	
積立金	200,000	
予備費	0	
支出合計	23,439,949	

インタビュー フィリピン

8年前、大学を卒業してすぐ日本人と結婚し、翌年、日本に関する知識があまり無いまま来日された鈴木ダリンさん。以来、日本の文化や伝統にとっても興味を持ち、今ではもう第二のふるさとだと思っているという程日本が大好きなのだとか。

◎どちらのご出身ですか？

マニラから飛行機で45分の所にあるパナイ島です。マンゴー、パイナップルなどの果物やさとうきびの栽培が盛んな、農業中心の島です。

◎フィリピンと日本で違うと思うところはありますか？

習慣や文化は全然違いますね。フィリピンはホスピタリティ、もてなしの精神がすごくあるんです。初対面の人でもすぐに家に入ってもらって食事を一緒にしたりします。日本ではそういうのはできないですよ。でも日本人の礼儀正しいところは大好きなんです。フィリピン人はあまり謝罪や感謝の言葉を言いません。日本では「ありがとう」「ごめんなさい」をよく耳にします。やっぱり声に出して気持ちを伝えるのはいいと思う。

◎フィリピンの伝統的な料理は何ですか？

大きな豚の丸焼き。『リチョン・ナ・バブイ』っていうの。誕生日やパーティーなどお祝いの席には

必ず出てきます。クリスマスにはフィリピンでは大体の人が故郷に帰るので、その時もこれは絶対かかせません。内臓や血を抜いて、ちゃんときれいにする下ごしらえからみんなでやる。それが楽しみなんです。大変ではないです。頭も耳もまるまる全部いただきます。

◎これからの夢とか目標はありますか？

日本語が完璧になったら、日本の大学に入って日本文学の勉強がしたいです。現在も通訳や翻訳などしていますが、将来は国際的に通用する通訳になりたいんです。それと今はフィリピンと日本の農業を発展させる掛け橋となるための会社を作る準備中です。仕事としてやりがいがあるだけじゃなく、誰かの役に立つのがうれしいし、人が大好きだからいろんな国の人を助けてあげたい。そんな仕事が楽しいから、ずっと続けていきたいですね。

◎最後に、日本の人々へメッセージをお願いします。

もうちょっと子供が増えるといいですね。保育所の不足など、子育ての問題を政府にもっと考えてほしいです。あと男性が家事も育児も手伝わないのは理解できません。夫も家のことをしないとダメです！フィリピンではみんな平等にやっていますよ。



国際こどもクラブ

マレーシア
Malaysia

6月7日(土)の異文化理解講座は、マレーシア出身のイヨ・シャオ・ジャさんを講師にお迎えしました。イヨさんは、今年4月から一橋大の商学部で学ぶ、さわやかな笑顔の学生さんです。

講座の始めにまずマレーシアの紹介ビデオが流されました。その後、イヨ先生から何問かクイズが出題されましたが、1問目の「位置について」と2問目「国旗はどれか？」に18名全員が正解!!先生も目を丸くして「えー、すごーい」と感心していました。次の問い「国花はどれか？」の時には、子供達から口々に「ビデオの一番最初に映ったよ!」の声があがりました。うーん、子供の注意力はたいしたもの。よく見ているし、よく覚えているなあ!このクイズコーナーで、他にもマレーシアの人口はおおよそ2700万人・一番高い山はキナバル山で富士山より高く4,000m以上ある・巨大花ラフレシアは国立公園で見られる・森の王様はオランウタンということなどが分かりました。

後半は、イヨ先生がピアノ伴奏をしながら、マレーシアの歌を教えてくださいました。

「Burung kakak tua (ぶろん かかつあ)」という題名(日本語で「オウム」)です。「オウムは人の言葉を理解する、おばあさんは人のことをよく知っている」といった内容の歌詞だそうです。ひとと知り覚えた後、先生が「誰か前に出て歌いませんか?」と聞くと、最初は3人しか手が挙がらなかったのに、歌った子は先生ご用意のステキなシールがもらえると分り、2回目には候補の手がニョキニョキ!一枚のシールにこんなに夢中になれるなんて「子供ゴコロ・アンテナ」は、大人とは感度が違います。

講座のおしまいに幾つか挨拶の言葉を習い、マレーシア語のさよなら「セラマ ジャラン」を口にしつつみんな元気に帰って行きました。



イタリア語会話入門

申込者が多く A と B、2つのクラスが出来たイタリア語入門講座。講師はナポリ出身のマリオ・ヴォットさんです。今回は6月4日(水)・第4回(Bクラス)の授業の様子をお伝えします。

クラスは前回習った単語の復習からスタート。先生の後について発音するみんなの声も、何回か繰返すうちだんだん揃って元気が出てきます。先生は新しく習う単語の綴りをみんなに考えさせるのですが、これがなかなか難しい。例えば、日本で習うローマ字の「カ・キ・ク・ケ・コ」は「ka・ki・ku・ke・ko」。でもイタリア語のカ行音は「ca・chi・cu・che・co」と表記されるのです。「うーん、どうだったっけ?」「思い付かない!」悩んでいる声が聞こえてきますが、先生はみんなの珍回答ぶりを楽しんでいる様子?

この他にも、2人ペアになって自己紹介や挨拶の練習をしたり、日本の「ジャンケンポン」にあたる「BIM・

BUM・BAM(ピンポンバン)」という遊びで、数字をおさらいしたりと、目・口・耳・手・・・総動員の授業はまたたく間に過ぎていきました。

澄ました顔で面白いことを言うマリオ先生。クラスは始終笑い声と和やかなムードに包まれていました。「活気があって楽しい」「習ったそばからすぐ忘れるので困っちゃう!」「先生に、何か難しい質問をしてみたい」終わった後にはこんな声が集まりました。

イタリア語を勉強中の人、これから学びたいという人へ、先生からのメッセージです。「本当は、イタリア語で本を読めるくらいまでになってくれたら一番嬉しい。言葉はまずその場で、すぐ反応することが大事。恥ずかしいとか笑われるとか考えずに、とにかく口に出してみる。」



日本語会話教室

6月7日土曜日の日本語会話教室に取材に行きました。土曜の教室は10時10分から12時10分までで、ちょうど、ティー



タイムのなごやかな中、学習者と先生にお話を聞く事が出来ました。この日は、ほとんどが中国人で、他にマレーシア人、ブラジル人でした。先ず学習者に質問①日本語は何が難しいですか?全部。漢字(非漢字圏)②何故日本語の勉強をしていますか?生活のため。③日本の良い所は何ですか?安全。便利。④悪い所は?物価が高い。家が狭い。日本語だけしか通じない。次に先生に質問。日本語を教える時、何が難しいですか?発音。(母国語によって違うから。)(日本人は発音にきびしく、差別するので正しく教えない)文法。漢字。(特に非漢字圏の人に。レベルが上がるのに必要だから。)漢字は双方の問題点でした。

ここの先生は、プロで日本語学校で教えていた経験者もいるそうです。なるほど、学習者と先生(教わる方と教える方)の良い関係が伝わってきました。今後の上達が楽しみです。

そうそう、ここで、なくてはならない影の力を知っていますか?日本語会話教室の時間、1階の遊戯室をのぞいてみて下さい。優しい保育ボランティアと楽しく遊んでいる可愛いお子様達がいっぱい。だから、安心して学べるのです。

日本料理講習

6月18日(水)

今回は、中国、モンゴル、タイ、スリランカ、ガーナの5人のみなさんと“ばらずし”と“青菜のごまあえ”を作りました。どちらも日本人にとっては、とても馴染み深い料理。



ごはんを炊いている間に、混ぜ合わせる具材と、ごまあえの下ごしらえを。チリメンジャコはレンコンと合わせ酢であえておき、しその葉ときぬさやは細切りに。(しその葉の香りに、微妙な顔をする参加者が何人か...その後に登場した紅しょうがにも同じ表情がちらほら)外国の人は、青菜をゆでる事が少ないようで『ゆでたら栄養がなくなっちゃった?』と質問がでていました。『なぜ薄く焼くの?』と疑問があがる中、一人一人“錦糸卵”づくりに挑戦しました。

炊きあがったごはんを飯台に移しジャコとレンコンを混ぜ合わせ、うちわでパタパタと冷ませば、ツヤツヤの酢めしの出来上がり。各自で器に酢めしを盛り、その上に好みの具材を思い思いにトッピング。ごまあえは、白ごまと黒ごまでそれぞれ2種類出来上がり...いざ試食タイムへ!!『色がきれいでおいしかった。』『サラダ(ごまあえ)も美味しかった。』『おかずがなくてもいい、野菜がたくさん。』『子供に食べさせてもいい。』『いえでは、ジャコとしょうがを入れないでつくる。』などの感想がききました。

編集後記

パレスチナの学生とイスラエルの学生が、生命の安全を考えないで心おきなく話しあえる場所は、日本において他にはあまりないそうです。こうした交流ができるのも、日本が平和な故でしょう。そんな国で起こった秋葉原の殺人事件は何といえよいのでしょうか。(T)

発行日 平成20年8月1日
発行 小平市国際交流協会 編集 機関紙グループ
〒187-0045
小平市学園西町2-12-22 学園西町地域センター3階
☎042-342-4488 / FAX. 042-347-3003